

平成15年3月27日

各位

株式会社 UFJホールディングス
(コード番号 8307)

平成15年3月期業績予想および連結業績予想の修正
並びに配当予想の修正に関するお知らせ

当社が昨年11月25日の中間決算発表時に公表した平成15年3月期(平成14年4月1日~平成15年3月31日)の業績予想および連結業績予想並びに配当予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成15年3月期業績予想

(単位:億円、%)

	営業収益	経常利益	当期利益
前回予想 (平成14年11月)	330	250	250
今回予想 (前回予想額対比)	180 (150)	120 (130)	120 (130)
増減率	45.5	52.0	52.0

【修正の理由】

前回予想時には子会社(株式会社UFJ銀行)からの中間配当金の受取を予想しておりましたが、本日同行において中間配当の見送りが決定されたことに伴い、営業収益、経常利益、当期利益とも前回予想比減少する見込みです。

2. 平成15年3月期連結業績予想

(単位:億円、%)

	経常収益	経常利益	当期利益
前回予想 (平成14年11月)	24,000	400	700
今回予想 (前回予想額対比)	23,000 (1,000)	6,800 (7,200)	6,500 (7,200)
増減率	4.2	1,800.0	1,028.6

【修正の理由】

当社銀行子会社において、貸倒引当金の計上に関しディスカウント・キャッシュ・フロー(DCF)的手法の適用等により、与信関連費用が前回予想時より約2,600億円増加し約7,400億円となること、および株式市況の長期低迷による株式等償却の増加、株式の持ち合い解消や新設する政策株式保有会社への株式譲渡等による株式等売却損の増加などにより株式関連損失が約6,200億円となることを主因として、経常利益並びに当期利益が損失計上となる見込みです。

3. 平成15年3月期期末配当金予想（普通株式）

（単位：円 / 1株当たり）

	期末配当金	（ご参考） 中間期配当金（実績）	年間配当金
前回予想 （平成14年11月）	2,500		2,500
今回予想 （当初予想額対比）	- (2,500)	-	- (2,500)

（注）優先株式につきましては、前回予想から変更なく、所定の配当金を支払う予定です。

【修正の理由】

当社銀行子会社が当期損失を計上することに伴い、当グループ全体の財務体質の維持・安定を図る観点より、内部留保の充実が必要と判断し、誠に遺憾ではございますが、普通株式に係る配当金の支払いは見送る予定です。

以 上

当行は投資家の皆様、お客さまなどに対するスピーディな情報公開を目的として、ホームページ上にニュースリリースを掲載しております。

なお、本ニュースリリースには証券取引法第166条に定められた重要事実に当たる情報が含まれる可能性があります。重要事実を含むニュースリリースをご覧になられた方が、その重要事実が証券取引法施行令の規定に従い公開された後12時間以内に、UFJホールディングスの株式などの売買等を行なった場合、いわゆるインサイダー取引規制違反として、証券取引法の規定に抵触するおそれがありますのでご注意ください。

1. 連結業績予想の概要

(単位：億円)

	子会社単体合算計数		
	UFJ銀行	UFJ 信託銀行	合計
実質業務純益(*1)	6,500	1,050	7,550
株式関連損益	4,900	1,300	6,200
うち株式等償却	1,250	600	1,850
与信関連費用(*2)	7,000	400	7,400
経常利益	6,100	900	7,000
当期利益	5,950	600	6,550
当社単体および銀行連結対象会社利益等			50
当社連結当期利益	(= +)		6,500

(*1) 一般貸倒引当金繰入前業務純益

(*2) 一般貸倒引当金繰入額、償却債権取立益を含む

【解説】

実質業務純益

子会社単体合算計数（以下、2行合算）の実質業務純益は7,550億円と見込んでおります。前回予想（平成14年11月）比200億円増加していますが、これは業務粗利益が増加することと経費削減が予想比上回ることによります。

株式関連損益

2行合算で6,200億円と見込んでおります。

これは株式市況の長期的な低迷により、売却損・償却とともに増加することが主因です。なお、売却損には、株式の持ち合い解消のために株式売却を促進したことに伴う損失やUFJ銀行が新設する政策株式保有会社（ ）への同行保有株式の譲渡に伴う損失が含まれております。

政策株式保有会社に関しては、本日別途「保有株式に関する新しい取り組みについて」と題して設立趣旨等につき発表しております。同社設立に当たってUFJ銀行が株式を譲渡することに伴い、上述のとおり株式等売却損が計上（2,000億円程度と予想）されますが、その一方で、その他有価証券評価差損は減少いたします。

与信関連費用

貸倒引当金の計上に際し、ディスカウント・キャッシュ・フロー（DCF）的手法を導入することなどを要因とし、2行合算で前回予想比2,600億円増加の7,400億円の与信関連費用を見込んでおります。

当期利益

株式関連損益、与信関連費用の悪化を主因とし、前回予想比7,250億円減少の6,550億円の損失計上を見込んでおります。

当社単体および銀行連結対象会社利益等

当社単体利益のほか、銀行連結対象会社利益や連結決算上の修正を加減し、50億円の利益を見込んでおります。

以上より、当社連結当期利益は6,500億円と予想しております。

2. 自己資本比率の予想

(単位：%)

	自己資本比率(連結)
当社	9%台半ば
UFJ銀行	9%台半ば
UFJ信託銀行(*)	7%台後半

(*) UFJ信託銀行の自己資本比率予想(連結)は国内基準にて算出した数値。
国際統一基準で算出したとすれば8%台半ばになると予想しております。

(ご参考) UFJ銀行の当中間期末(平成14年9月末)自己資本比率は、既に公表の通り、中間配当金額に支払予定上限額を用いて算出したもので確定しておりますが、本日決定された同行の中間配当支払額を用いて同比率を算出した場合には、次のとおりとなります。

[連結] 11.24% (公表比率: 11.12%) [単体] 12.01% (公表比率: 11.88%)

以 上